

和白干潟は生きものの宝庫

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

和白干潟はこんなところ



和白干潟



きりえ: メダイチドリ

私のふるさととは博多湾・和白干潟のすぐそばです。子どもの頃は和白干潟で泳いで過ごしました。潮干狩りも盛んです。和白干潟（80 ha）は博多湾の東部、和白海域（300 ha）にある砂質干潟で、日本海側では最大規模の干潟です。周辺の博多湾沿岸はほとんど人工の海岸になっていますが、ここには砂浜、岩礁地帯からヨシ原、クロマツ林へと続く貴重な自然海岸が残っています。また東アジアの水鳥の渡りルートの交差点にあたる国際的に重要な場所で、1980年以降238種の野鳥が観察されています。1975年より飛来しているミヤコドリの渡来地として有名です。絶滅が心配されているクロツラヘラサギ・ズグロカモメ・ツクシガモなどの越冬地としても重要です。水鳥たちがたくさんやってくるのは、餌となる貝、カニ、ゴカイなどの底生動物が豊富であり、広くて安全な場所があるからです。和白干潟にすむたくさんの小さな生きものたちは干潟に穴を掘ってすんでおり、干潟に酸素を供給します。また微生物、底生動物、魚、鳥と続く（人間も含まれる）食物連鎖により、海水を浄化しています。

日本では戦後4割以上の干潟が埋め立てなどで失われてしまいました。和白干潟は福岡市という大都市に残る貴重な自然環境です。しかし、福岡市の人口増加による家庭排水の流入増と、博多湾のあいつぐ埋め立てで浅海域を失い浄化能力を落とした博多湾は、弱ってきています。1994年から和白干潟沖を埋め立てる人工島建設工事（401 ha）が進行中のために、影響が心配されています。

和白海域は2003年に「国指定和白干潟鳥獣保護区」に指定され、2004年には環境省のラムサール条約登録湿地の候補地にもなりました。私は1988年に「和白干潟を守る会」を呼びかけ、和白干潟の保全活動をしています。世界中で干潟などの湿地を保全する「ラムサール条約」もでき、守る努力がなされています。博多湾・和白干潟が「ラムサール条約」の登録湿地となり保全されるように願っています。

和白干潟を守る会 では大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために次のような活動を行っています。 **1 . 自然観察会・自然観察ガイド講習会・和白干潟まつりの開催 2 . クリーン作戦 3 . 鳥類調査・生物調査・水質調査・ゴミ調査 4 . 和白干潟通信やパンフレット・写真集などの発行・**

ホームページでの広報 5. 定例会議の開催・シンポジウムの開催など。

私たちは地道な環境保全活動を通して、博多湾・和白干潟の自然の大切さを多くの方々に伝えたい、また地球規模の環境保全活動を進めたいと願っています。和白干潟の観察会やクリーン作戦に参加された方たちが、地域の自然を守る心を通して、地球全体の自然や環境を守る心を育ててほしいと願っています。



自然観察会



クリーン作戦

和白干潟を守る会 : 811-0202 福岡市東区和白 1-14-37 TEL/FAX 092-606-0012

ホームページ : <http://www14.ocn.ne.jp/~hamasigi/>

春・渡り鳥が立ち寄っていきます

3月から5月頃には、越冬していたカモたちは北の繁殖地に渡っていきます。入れ替わって春の渡り鳥が訪れます。オオソリハシシギ・ハウロクシギ・オバシギ・キアシシギ・メダイチドリなどのシギやチドリが和白干潟に立ち寄っていきます。とくに春は繁殖羽になっていて、美しい色あいの鳥たちが見られます。和白干潟でカニやゴカイなどを食べて栄養補給をして、また北へ渡っていきます。また夏鳥のコアジサシやオオヨシキリが渡ってきます。和白干潟はアサリの潮干狩りが盛んです。4・5月には1000人以上の人が干潟に入っています。渡り鳥にとっては、人が多くて干潟を利用しにくいようです。

和白干潟のアシ原ではハマダイコン、ハマエンドウなどの花が次々に咲きます。北の植物で和白干潟が南限のハマニンニクが穂を付けます。木の花ではセンダン、ヤマフジなどが咲きます。ハマウドも大きく育ち、花が咲きます。アシ原はお花畑のようです。



赤い繁殖羽のオオソリハシシギ



ハマダイコン

夏・繁殖期で大忙し

南から渡ってきたコアジサシは和白干潟の浅瀬で小魚を捕ります。海でダイビングする姿が見られます。また夏期には留鳥のサギが繁殖羽に変わり、美しくなります。また繁殖して羽数も増えます。ダイサギ・コサギ・アオサギなどが干潟に 100 羽以上並んで休む姿は壮観です。ミサゴが魚を捕ったり、ハヤブサの姿も見られます。アシ原ではオオヨシキリが子育てをしています。カイツブリ・バン・カルガモなどの親子連れの姿を見ることができます。

また干潟の底生動物たちも繁殖期を迎えるものが多く、活動が活発になります。砂質の和白干潟では、カニではコメツキガニが最も多く、干出した干潟のあちこちで見られます。河口付近では絶滅が心配されるハクセンシオマネキやチゴガニがさかんにハサミを振っています。泥地ではヤマトオサガニがダンスをしています。ゴカイではタマシキゴカイが真夏の沖合いの干潟に巣穴からフンを出しスパゲティのように積み上げています。三角の山が無数に干潟上に現れて、月面のように見えます。和白干潟は、様々な生きものであふれます。

アシ原の植物では、ハマナデシコやハマヒルガオやツルナ、ハマゴウなどが花を付けます。アシが大きく育ち、だんだん藪のようになります。アシ原奥の淡水の湿地では、絶滅が心配されるヒトモトススキが黄土色の穂を付けます。和白干潟奥にはヒトモトススキの大きな群落地があります。アシ原の中に巣穴を掘って生活しているアシハラガニやクロベンケイガニは、夜行性で夕方になると干潟にぞろぞろと出てきます。夜に干潟沿岸を歩き回って食事をしています。

和白干潟の牧の鼻下の海岸には、自生したハマボウが年々順調に育っています。毎年夏になると美しい黄色い花を咲かせます。今年は 500 個の花が咲きました。



砂浜で羽を休めるコアジサシ



ハサミを振るハクセンシオマネキ

秋・冬鳥が渡ってきます

9月から10月頃には、シベリアなどで繁殖をすませた渡り鳥のチュウシャクシギやオオソリハシシギなどのシギやチドリたちが、和白干潟に立ち寄っていきます。また冬鳥のカモ類やカイツブリ類、シギ・チドリ類が越冬のために渡ってきます。和白干潟のシンボル鳥のミヤコドリも渡ってきます。渡ってきたばかりのカモたちはエクリプス羽で茶色っぽい地味な色をしています。11月頃にはカモらしい美しい色合いになります。

アシ原ではアシにホクホクの穂が出ます。ハマシオン（ウラギク）が紫色の花を付け、やがて白い綿毛になります。砂の干潟に生えるハママツナが赤く紅葉します。ハママツナの大きな群落地があります。



和白干潟のシンボル、ミヤコドリ



ハママツナの紅葉

冬・一番水鳥が多い季節です

スズガモやホオジロガモなどの海ガモ類は和白干潟の沖合いに浮かんでいます。カンムリカイツブリやハジロカイツブリなども多数見られます。沿岸の浅い海ではマガモやヒドリガモ、ヨシガモなどの淡水ガモがゆったりと食事をしたり昼寝をしたりしています。ユリカモメやウミネコなどのカモメ類もいます。海が引いて干潟が出てくると、ミヤコドリやハマシギやダイシャクシギなどが干潟で食事をします。和白干潟は主に砂質の干潟なので、小型シギではミユビシギが多いのが特徴です。ハマシギ・ミユビシギ・シロチドリで混群を作り美しく群舞します。絶滅が心配されるクロツラヘラサギやズグロカモメ、ツクシガモたちも来ています。カワウ 1000 羽による魚の追い込み漁も見ものです。冬の和白干潟は、一年中で一番水鳥でにぎわう季節です。

アシ原の植物は冬枯れして、歩きやすくなります。アシ原にはアシハラガニ、クロベンケイガニなどの大きなカニの巣穴が空いています。ホソバノハマアカザやホコガタアカザ、ウラギクなどの塩生植物たちの小さな可愛い芽が出て、春を待っています。



絶滅が心配されるクロツラヘラサギ



近年渡来数が増えたツクシガモ